



*Escuelas Oficiales de Idiomas de Madrid
Consejería de Educación e Investigación
Comunidad de Madrid*

***Procedimientos selectivos para
el ingreso y acceso al cuerpo de
Profesores de Escuelas Oficiales de Idiomas***

*Resolución de 6 de marzo de 2018 y
Resolución de 10 de mayo de 2018
de la Dirección General de Recursos Humanos*

***PRIMERA PRUEBA PARTE A-1
EXPLOTACIÓN PEDAGÓGICA DE UN
TEXTO
JAPONÉS***

23 de junio de 2018

問題1 記事 時間：80分 満点：5点（5X1点＝5点）

次の記事を読んで、質問に教えてください。



子どもの審美眼に学び、未知の世界へ かこ、さとしさん

佐々波幸子 2018年5月7日

絵本作家で児童文化研究家のかこさとし（加古里子）さんが、92歳で亡くなった。

生涯現役で、絵本を通してメッセージを送り続けた。「子どもであっても、自分の考えを持ち、行動できるようお手伝いするのが私の使命」と穏やかな口調でよく語っていた。

少年時代、飛行機乗りの軍人にあこがれ、航空士官を志した。近視が進み断念したが、ともに軍人を目指した級友たちは皆、特攻機で死んでいった。自分は「死に残り」だという思いが消えなかった。

東京大工学部を卒業後、昭和電工に入社。勤めの傍ら、焼け野原にバラックが並ぶ川崎市で、生活に苦しむ人々の医療や教育を支えるセツルメント運動に加わった。子ども会活動に力を注いだのは、軍国少年だった自分のような判断の過ちを犯さぬように、という悔恨が根底にあったからだ。

川崎の子どもたちに自作の紙芝居をよく見せた。つまらないと、すーっと消えてザリガニ釣りに行ってしまふ。最後まで見てもらえる作品を、と一から作り直した。「師匠をもたない自分は、子どもの審美眼に学んだ」と振り返っていた。

「子どもは自ら楽しみを生み出す力を持っている。大人が力を注ぐべきことは、子どもが興味を持った世界に一步ずつ入り、深いところまで行き着けるよういざなうこと」だと確信し、実践したのが、『かわ』『海』『地球』『宇宙』など一連の科学絵本だ。身近な事柄から未知の世界へと、気づかぬうちに理解が広がるよう、時にはふすま28枚分の下絵を描き直し、伝え方に工夫を重ねた。

89歳のとき、「元気のひみつ」を伺う取材で、「早起き」や「風呂でござし体をこする」に加え、「相手から学び取る」姿勢を挙げたことにハッとさせられた。「おぬし、なかなかやるな」という目で、そりの合わない上司とも、畑を荒らすカラスとも関わった。

質問

1.- 記事には「メッセージ」、「バラック」、「セツルメント」、「ハッと
する」や「ザリガニ」など、カタカナの言葉があります。日本語にはカタカナ
は何に使いますか。例をあげながら、説明してください。

2.- 記事には「ような」「ように」があります。どうやって生徒に説明すれば
いいと思いますか。例をあげて、文法の観点から生徒向けの説明してください。

3.- 「見てもらえる」の「もらえる」というのはやりもらい助動詞の一つで
す。日常会話によくでてきますか。生徒にどのように紹介したらいいと思いま
すか。例を挙げながら、やりもらい助動詞の使い方について説明してください。

4.- 「身近な事柄」音読みではなく、訓読みで読みます。その読み方はどの
ような場合に使いますか。生徒にどのように紹介したらいいと思いますか。例
をあげながら、説明してください。

5.- 記事は一番伝えたいことは何ですか。200単語以内でまとめを書いて
ください。



*Escuelas Oficiales de Idiomas de Madrid
Consejería de Educación e Investigación
Comunidad de Madrid*

***Procedimientos selectivos para
el ingreso y acceso al cuerpo de
Profesores de Escuelas Oficiales de Idiomas***

*Resolución de 6 de marzo de 2018 y
Resolución de 10 de mayo de 2018
de la Dirección General de Recursos Humanos*

PRIMERA PRUEBA PARTE A-2

COMPRENSIÓN AUDITIVA

JAPONÉS

23 de junio de 2018

問題 2 聴解問題 時間：50分
聴解問題は2回流れます。

満点：2点

アメリカで広がるファクトチェック

聞いた話が一番伝えたいことは何ですか。200単語ぐらいでまとめを書いてください。



*Escuelas Oficiales de Idiomas de Madrid
Consejería de Educación e Investigación
Comunidad de Madrid*

***Procedimientos selectivos para
el ingreso y acceso al cuerpo de
Profesores de Escuelas Oficiales de Idiomas***

*Resolución de 6 de marzo de 2018 y
Resolución de 10 de mayo de 2018
de la Dirección General de Recursos Humanos*

PRIMERA PRUEBA PARTE A-3

***TRADUCCIÓN ESPAÑOL-JAPONÉS Y
JAPONÉS-ESPAÑOL***

JAPONÉS

23 de junio de 2018

TERCERA PRUEBA TRADUCCIÓN Tiempo máximo 50 minutos. (3 puntos máximo)
問題3 翻訳 時間：50分 満点：3点

パート1

次のテキストを日本語に翻訳してください。満点1、5点

Las cartas

Debido a la popularización del teléfono se escriben menos cartas. Pero ¿cuántas personas escriben cartas aún? El pasado año la editorial de un periódico recogió la opinión de sus lectores sobre las cartas. Al parecer, contestaron 745 lectores de edades comprendidas entre los 11 y 85 años de edad.

Estas personas escribían de promedio unas 17 cartas o postales al mes, y recibían unas 12. Separando por edades, cuánto mayores eran, más cartas escribían; en especial los que se encontraban en el decenio de los 60 y 70 años de edad, quienes escribían muchas más. Se descubrió que, incluso en un presente que se presupone alejado de la correspondencia, todavía hay muchas personas a quienes les gusta escribir cartas.

De entre los temas sobre los que escribían, los más frecuentes eran informar sobre acontecimientos recientes de la vida diaria, así como agradecer un regalo o un favor recibido. Le seguían las felicitaciones, las muestras de ánimo a un enfermo, las solicitudes de consejo y las disculpas.

A la pregunta de por qué les gustaban las cartas, unos respondieron que éstas permitían transmitir un asunto sin emocionarse. Otra razón era que por carta podían decir sin molestar al interlocutor incluso aquello que les avergonzaría decir en su presencia.

(Nihongo Journal, 1993)

パート2

次のテキストをスペイン語に翻訳してください。満点1、5点

渋谷 100年に一度の都市開発に迫る

常に新しいファッションや流行を生み出し、近年ではIT企業が集まる都内有数のオフィス街ともなっている渋谷。さまざまな顔をもつこの街では、現在駅周辺で7つの開発プロジェクトが進行し、2020年までに4棟の超構造ビルが完成予定。日本のクリエイティブ産業をさらに活性化させるため、新しいビジネスや、カルチャーを生む人材が集まる街を目指している。

なかでも大きく変わるのが、駅周辺の動線。これまで9路線が乗り入れ、地下5階から地上3階まで各線のホームが分散して、迷路のようになっていた構内は、JR埼京線と東京メトロ銀座線のホームが移動し、現在よりもスムーズな移動も大幅に改善し、小さな子どもを連れた人やお年寄りなどにも安全に快適な空間へと変わっていく。水や緑があふれ、歩いて楽しく良い街を目指す渋谷。これは街の主役が、ビルから人へと移っていくにもつながるはずだ。

(『にぽにか』、2016年)